



電気蓄熱暖房器

「蓄暖王」
Eシリーズ

取扱・据付説明書

★この度は、「蓄暖王」Eシリーズをお買い上げいただきまして誠にありがとうございました。

★お使いになる前に、必ずこの取扱・据付説明書をよく読んで、ご使用下さい。

★お読みになった後は、大切に保管して下さい。



目 次

【1】 使用上の注意事項	1
【2】 蓄暖王の仕組みと特長	2
【3】 構造と各部の名称	3
【4】 操作方法	4
4-1 蓄熱操作 4-2 暖房運転	
【5】 故障かなと思ったら	
【6】 据 付	
6-1 据付時の注意事項	5
6-2 据付順序	5
6-3 据付位置決め	6
6-4 本体電気配線と屋内配線の接続	6
6-5 本体の固定(転倒防止金具取付)	7
6-6 蓄熱レンガの組込	8
6-7 組立チェックリスト	9
【7】 補足説明	
7-1 安全装置	10
7-2 電気回路図	10
7-3 Eシリーズを時間帯別電灯契約で使用する場合	11
【8】 点検、アフターサービス	12
【9】 標準仕様	13



警告・注意

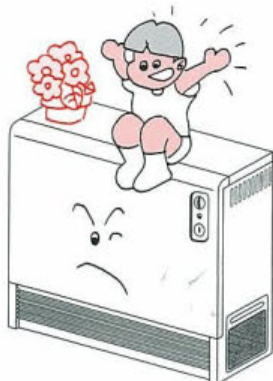
1 使用上の注意事項

- ①絶対に暖房器を分解しないでください。

感電の恐れがあり、また故障の原因にもなりますので、絶対に分解しないでください。

- ②暖房器の上部に物をのせないでください。

ケースが変形すると部分的に温度が上がり、故障の原因になります。



- ③温風吹出口のすぐ前で寝込まないようにしてください。

温風を長時間、直接体にあてますと、低温やけどや脱水症状を引き起こす恐れがあります。

(特に、乳幼児・お子様・お年寄り・病気の方などが)
お使いのときは周囲の方が注意してください。)

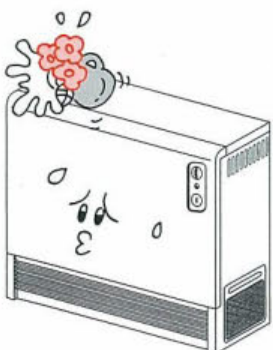
- ④温風吹出口や吸込口・放熱グリルを塞がないでください。

暖房器内部の温度が上昇し、故障の原因となります。



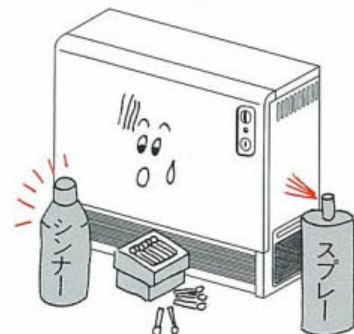
- ⑤水などをかけないでください。

故障や感電の恐れがあります。



- ⑥まわりにスプレー類及び燃えやすいものを置かないでください。

スプレー類は温度が上がると爆発の危険があり、またベンジン等引火物は火災を起こす恐れがありますので暖房器周辺には置かないでください。



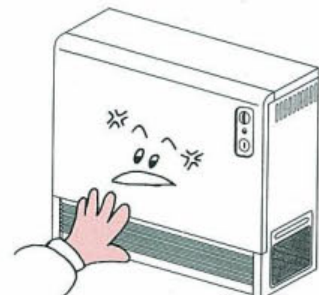
- ⑦家具、カーテン、衣類等を近くに置かないでください。

変形や表面が変色する恐れがあります。

左右側面15cm以上、上方6.5cm以上
後方6.5cm以上

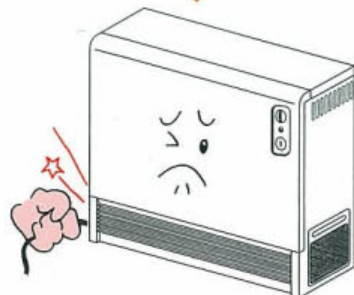
- ⑧温風吹出口の付近には手を触れないでください。

温風吹出口の内部は高温になりますので、指や物を入れないでください。



- ⑨電源コードを引っ張ったり、引っかかないでください。

引っ張りや曲げが繰り返されますとコードが劣化し、暖房器の運転が停止したり、感電や火災の恐れがあります。



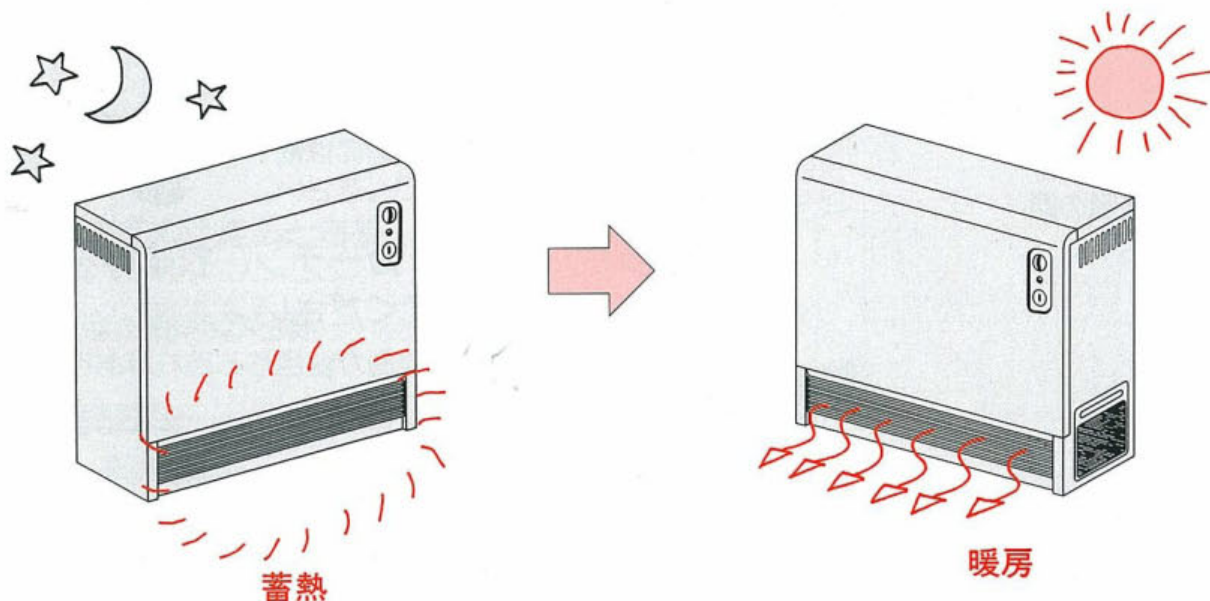
- ⑩温風吹出口に向けて、掃除機・送風機などの強い風が出るものを置かないでください。

風を吹き込むと温風が逆流し、故障の原因となります。



2 蓄暖王の仕組みと特長

「蓄暖王・Eシリーズ」は、深夜の安い電力を利用して、蓄熱レンガに熱をため（600℃以上）、昼間この熱を取り出して暖房する「電気蓄熱暖房器」です。電気蓄熱暖房器は、火を使わず室内の空気も汚さないのので安全でグリーンな暖房器です。新省エネルギー基準適合に準ずる「高断熱・高気密」住宅に最適な暖房器です。



電気エネルギーだから、とても安心。

熱源は、燃料切れや燃料漏れ等による火災などの心配がいない電気エネルギー。おでかけや、おやすみの時も安心です。

カンタン操作で、お部屋はスグにぽっかぽっか。

室温や蓄熱量の設定ダイヤルをはじめファンの強弱もすべて前面操作でワンタッチ。かんたん操作でお部屋をすばやく暖めます。

ムダ、ムリ、ムラなく経済的。

断熱性能がよく、自然放熱を抑えています。春・秋、季節の変わりめの暑すぎはありません。したがってムダな電気代もかからず経済的です。

いつまでも続く陽だまりのようなあたたかさ。

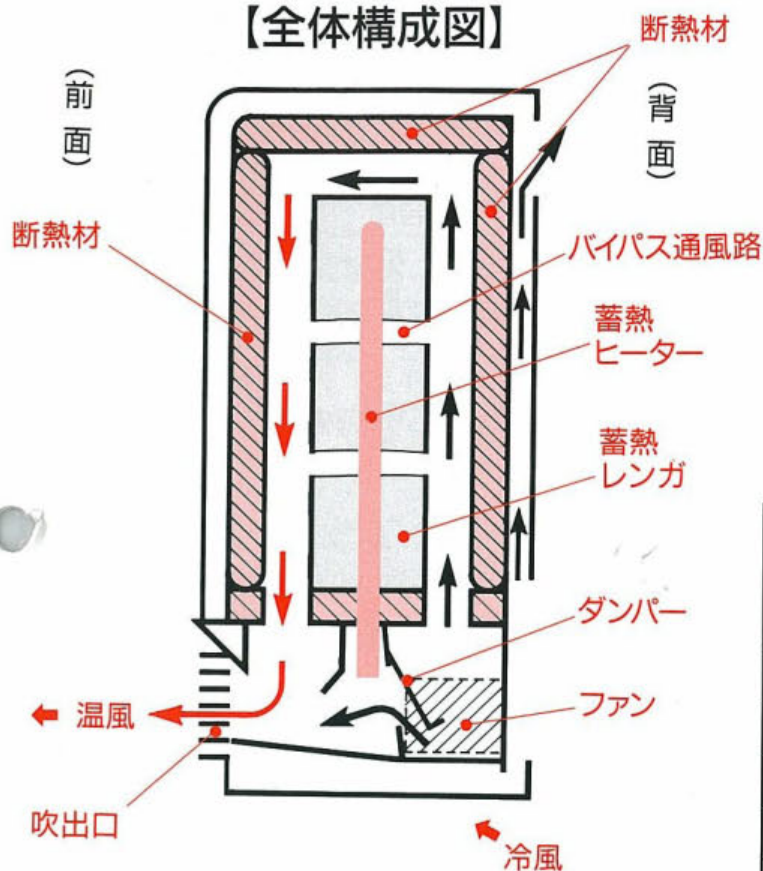
ほのほのとうれしい蓄暖ならではのマイルドなあたたかさ。一日中陽だまりのような心地良い暖さがあなたをつつみます。

お部屋を選ばないカドがとれたまあるい性格。

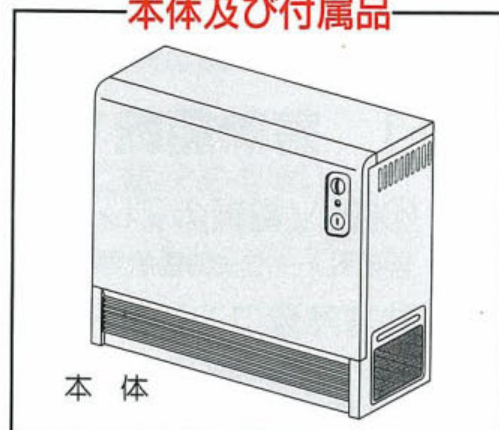
コーナー部分を丸くしたバランスのよい設計。さらに和・洋室どちらにも溶け込むよう清潔なアイボリー系を採用しました。

3 構造と各部の名称

【全体構成図】



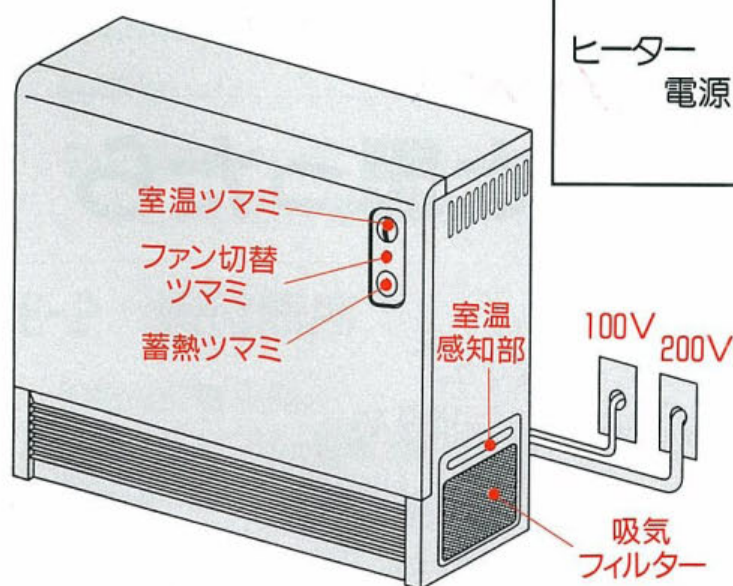
本体及び付属品



機種	A金具	B金具	M5ネジ	平ワッシャー	スプリングワッシャー	タッパビス	木ネジ
EHK-2000	1	2	2	2	2	4	6
EHK-3000	1	2	2	2	2	4	6
EHK-4000	1	3	3	3	3	6	6
EHK-5000	1	3	3	3	3	6	6
EHK-6000	1	4	4	4	4	8	6
EHK-7000	1	4	4	4	4	8	6

配線	電圧	機種	付属ケーブル
ファン電源	100V	全機種	耐熱キャブタイヤケーブル 0.75mm ² ×2C
ヒーター電源	200V	EHK-2000	耐熱キャブタイヤケーブル 3.5mm ² ×3C
		EHK-3000	耐熱キャブタイヤケーブル 3.5mm ² ×3C
		EHK-4000	耐熱キャブタイヤケーブル 5.5mm ² ×3C
		EHK-5000	耐熱キャブタイヤケーブル 5.5mm ² ×3C
		EHK-6000 EHK-7000	耐熱キャブタイヤケーブル 8mm ² ×3C

〔本体より約1.2m(100V・200Vとも)〕



4 操作方法

蓄熱レンガに熱を蓄えておかないと、暖房できません。暖房を開始する時、必ず蓄熱運転と暖房運転の両方の操作をおこなって下さい。

4-1 蓄熱運転

①200V電源のブレーカーを入れて下さい。

(ブレーカーの場所等については事前にご確認下さい)

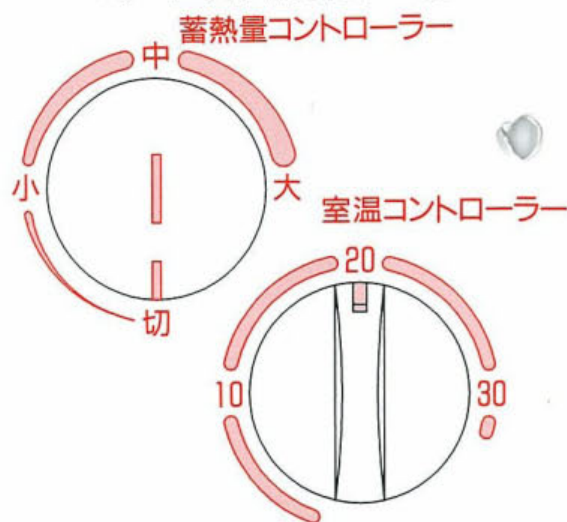
②蓄熱量コントローラーをセットして下さい。

ダイヤル調節により蓄熱量を無段階に設定できます。コイン等を使って、小～大まで季節にあわせてセットして下さい。(上記の表をご参考にしてください。)

※不使用期間、又は使わない部屋のブレーカーを「切」にしてください。

蓄 熱 量		
目盛	設定の目安	蓄熱の割合
大	真冬	100%
中	初春・晩秋	50%
小	春・秋	25%

※小・中・大の中間の位置でも調整可能です



4-2 暖房運転

室温コントローラーを好みの室内温度にセットしてください。

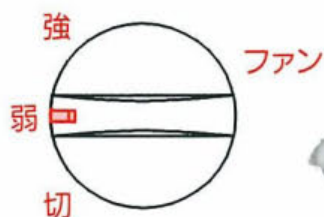
※22℃位が経済的な温度設定です。

※温度表示の目盛りは室温設定の目安としてご利用ください。

注意 暖房器の設置状況により、目盛りと実際の室温に多少の誤差が出ることがあります。

ファン運転を止める場合はスイッチを「切」にしてください。

ファン切替スイッチでファンの回転を「強」「弱」に切替えられます。通常時は弱で、すばやく部屋を暖める時は「強」でお使い下さい。



5 故障かな?と思ったら

蓄熱されない、温風が出ない時には次の項目を確認して下さい。

- ①蓄熱されない。
 - ・ブレーカーが「入」になっていますか。
 - ・蓄熱量ツマミが「小」以上になっていますか。
- ②温風が出ない。
 - ・ブレーカーが「入」になっていますか。
 - ・ファン切替ツマミが「切」になっていませんか。
 - ・室温ツマミの設定が低くなっていますか。

以上の点検でも原因がわからない場合は、販売店または当社へ連絡してください。



6 据 付

6-1 据付時の注意事項

ここではご使用いただくお客様ではなく、電気工事店の方々への注意事項を記載しております。

①壁、家具、棚等から所定の離隔を取った状態で設置してください。

(6-3据付位置決め参照)

周囲を壁や棚で塞ぎ、十分な離隔が取られていないと故障の原因になったり、家具、壁が変質する恐れがあります。特に左右側面については、メンテナンス作業が可能なスペースを確保してください。

②カーペット・畳の上には直接設置しないでください。

(6-3据付位置決めを参照)

③電気配線は必ず、本体付属の耐熱ケーブルをご使用ください。

(6-4本体電気配線と屋内配線の接続を参照)

④必ず転倒防止金具を取り付けてください。

(6-5本体設置を参照)

⑤設計あるいは建築段階で壁に補強板が敷設されていることを必ずご確認ください。その上で本体を設置してください。(6-5本体の固定を参照)

各機種の総重量を必ず確認の上、床補強を行ってください。(9標準仕様を参照)

⑥本体を組み立てるネジは確実に締め付けてください。

(6-6蓄熱レンガの組込を参照)

⑦断熱材は慎重に取り扱ってください。

(6-6蓄熱レンガの組込を参照)

断熱材を破損させたり、変形させた場合はそのまま使用しないで下さい。熱漏れ等により表面が高温になる恐れがあります。

⑧チェックリスト(6-7参照)をご活用の上、据付工事を行ってください。

⑨位置決めなどで、暖房器を移動する場合は、引きずらないで持ち上げて移動して下さい。床を傷つけたり、暖房器の転倒遮断スイッチが破損する恐れがあります。

6-2 据付順序

①据付位置決め。

②電源ケーブル(付属)屋内配線との接続。

③本体の固定(転倒防止金具取付)。

④レンガ組込。

6-3 据付位置決め

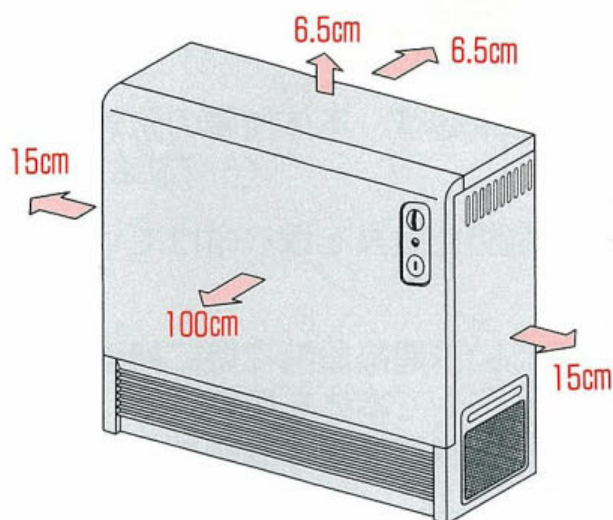
●本体据付位置の確認

壁・カーテン・家具等に対して離隔を取って下さい。十分な離隔が確保されていないと、カーテン・家具等の変色の恐れがあります。また本体右側面の室温センサー部と放熱グリルを塞がれると機器が誤動作(蓄熱温度過昇防止器または室温センサーが動作)し、故障の原因となる恐れがありますので、特にご注意下さい。

⚠ 注意事項

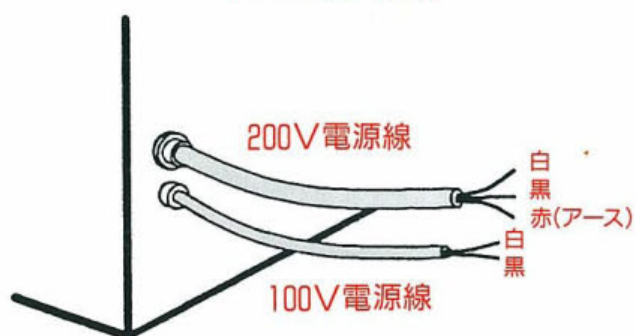
- ・カーペット・畳の上には直接設置しないでください。
- ・カーペット上に設置する場合は化粧板を敷いた上に設置してください。(厚さ20%~25%)

【目安となる離隔距離】



6-4 電源・制御回路の接続

【電気配線】

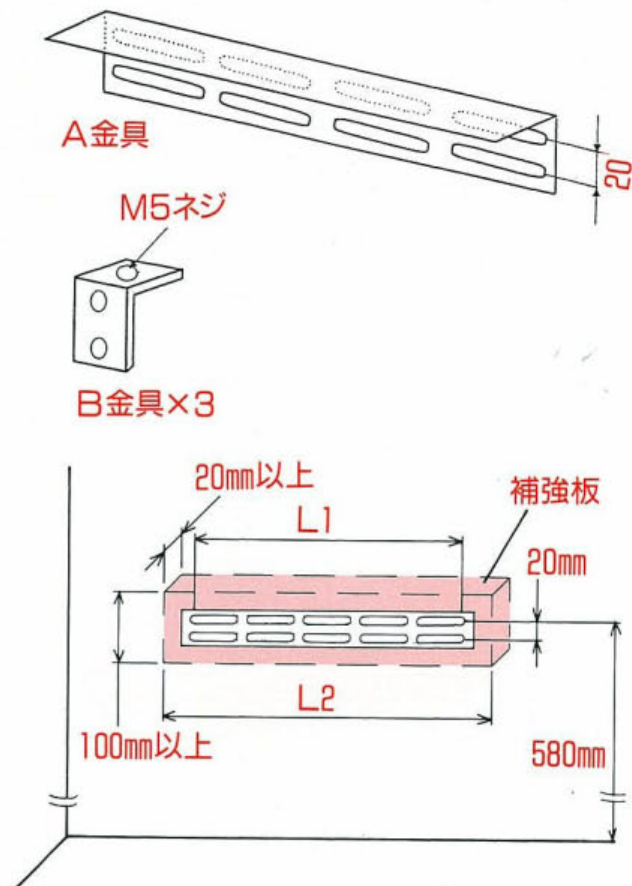


配 線	電 圧	機 種	付属ケーブル
ファン電源	100V	全 機 種	耐熱キャブタイヤケーブル 0.75mm ² ×2C
ヒーター 電源	200V	EHK-2000	耐熱キャブタイヤケーブル 3.5mm ² ×3C
		EHK-3000	耐熱キャブタイヤケーブル 3.5mm ² ×3C
		EHK-4000	耐熱キャブタイヤケーブル 5.5mm ² ×3C
		EHK-5000	耐熱キャブタイヤケーブル 5.5mm ² ×3C
		EHK-6000	耐熱キャブタイヤケーブル 8mm ² ×3C
		EHK-7000	耐熱キャブタイヤケーブル 8mm ² ×3C

[本体より約1.2m(100V・200Vとも)]

6-5 本体の固定（転倒防止金具取付）

一般的な一戸建住宅で固定する場合を想定しています。高層マンションや高層団地などに設置する場合は、「耐震転倒防止金具設置設計計算」に基づいた内容で固定してください。地震等による転倒を防止するため、本体を壁に固定して下さい。



機種	A金具	B金具	M5ネジ	平ワッシャー	スプリングワッシャー	タップビス	木ネジ
EHK-2000	1	2	2	2	2	4	6
EHK-3000	1	2	2	2	2	4	6
EHK-4000	1	3	3	3	3	6	6
EHK-5000	1	3	3	3	3	6	6
EHK-6000	1	4	4	4	4	8	6
EHK-7000	1	4	4	4	4	8	6

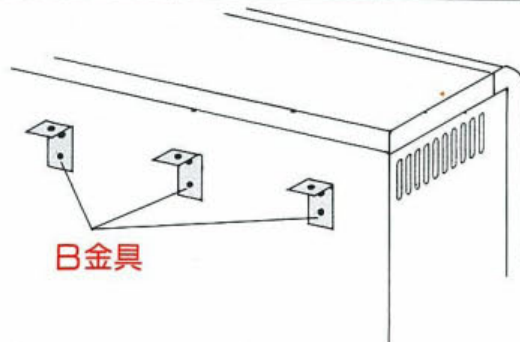
〈L寸法〉

- ・壁には必ず補強板を用意してください。
- ・下記表を参考にしてください。

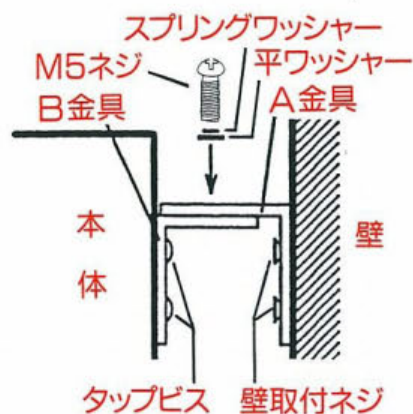
機種	L1寸法	L2寸法
EHK-2000	533mm	693mm
EHK-3000	728mm	872mm
EHK-4000	810mm	1,051mm
EHK-5000	1,050mm	1,230mm
EHK-6000	1,290mm	1,504mm
EHK-7000	1,530mm	1,683mm

②本体にB金具を本体に付属のタップビスで取り付けて下さい。

壁固定の際には、両端のネジ穴を利用して下さい

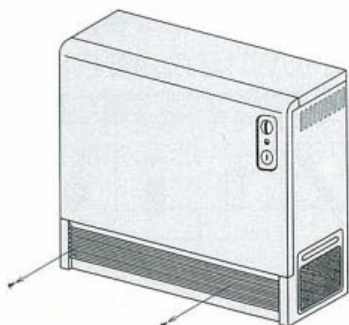


③A金具とB金具(本体)を付属のM5ネジで止めて下さい。

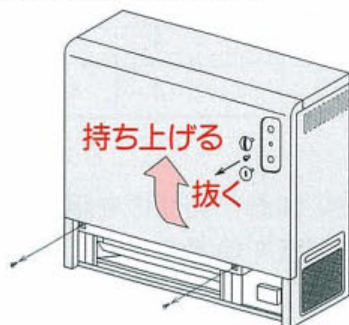


6-6 蓄熱レンガの組込

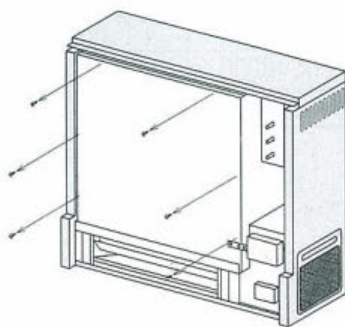
①吹出グリルを外す。



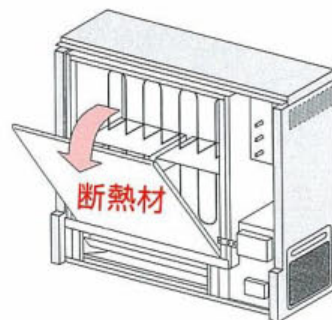
②操作ツマミを手前に抜き、次に前板を持ち上げて外す。



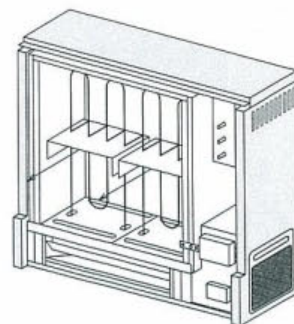
③内前板を外す。



④断熱材を外す。



⑤ヒーター固定用ダンボールを外す。



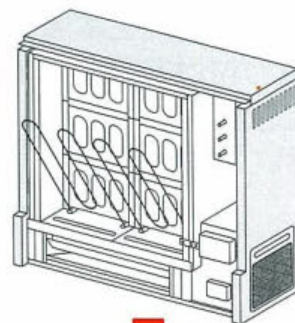
⑥蓄熱レンガを組み込む。

蓄熱レンガにはヒーターをはさむ溝があります。それぞれのヒーターを前後からはさむように後側→前側の順に蓄熱レンガを組み込んで下さい。

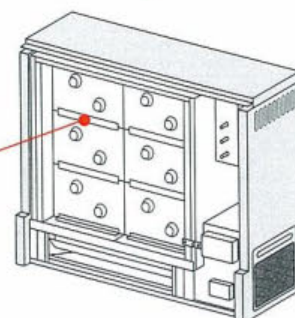


注意

後側のレンガを設置する際、レンガによるヒーターの破損には十分注意してください。

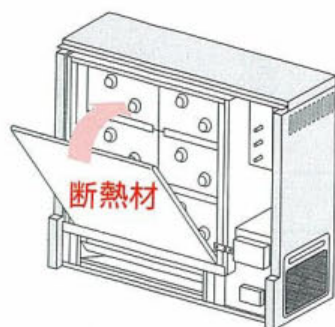


通風路



項 目	蓄熱レンガ数量
EHK-2000	12ケ
EHK-3000	18ケ
EHK-4000	24ケ
EHK-5000	30ケ
EHK-6000	36ケ
EHK-7000	42ケ

⑦断熱材を入れる。



(1)断熱材(マット及びボード)は下部を先に差し込み、上部をすべらせながら入れます。この時、断熱材を無理に押し込み破損や変形がないようにご注意ください。

断熱材は必ずポートがレンガに接する様に先に組み込んでください。

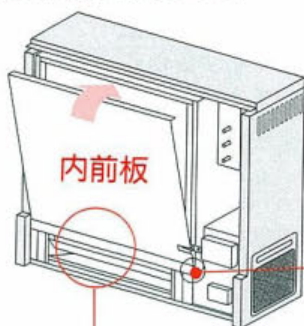


注意

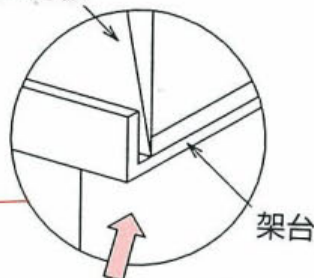
断熱材は破損しやすいので、注意して組み立ててください。万が一、断熱材が破損した場合、故障の原因となる恐れがありますので、新品と交換の上、組み込んでください。

⑧本体を組立てる。

解体と逆の手順で組立てて下さい。



内前板



架台



注意：この表示が見えなくなるように板を差し込んでください。

※内前板下部に印字されています。

内前板は必ず架台の内側に差し込んで下さい

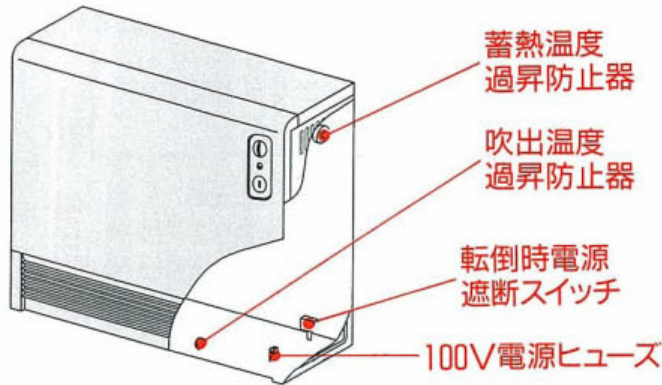
6-7 チェックリスト

項目	チェック内容	チェック欄
1	本体設置位置の確認。壁、カーテン、家具等に対して十分離隔を確保したか。 (左右側面15cm以上 上方6.5cm以上 後方6.5cm以上)	
2	本体付属の耐熱ケーブルと屋内配線を確実に接続したか。 (100V、200V配線の接続間違いはないか)	
3	壁に転倒防止金具を規定の壁固定用ネジ(6本)で確実に固定したか。	
4	本体と壁固定金具はM5ネジ(各指定数)で確実に固定したか。	
5	レンガを組み込む際、蓄熱用ヒーターを誤って曲げたりしていないか。 レンガは後側から組み込み、ヒーターを確実に挟み込んだか。	
6	断熱材(マット及びボード)は、ボード(6mmの薄い板)をレンガ側にして先に組み込んだか。 (マットが外側、ボードがレンガに接する内側)	
7	断熱材を組み込む際、破損や変形はしていないか。	
8	内前板は、架台の内側に差し込んだか。また内前板下部に印字されている文字が見えなくなるまで差し込んだか。	
9	ネジの締め忘れ、ゆるみはないか。	
10	各操作ツマミは取り付けたか。 試運転は行ったか。	

7 補足説明

7-1 安全装置

本器には以下の安全装置が装備されております。

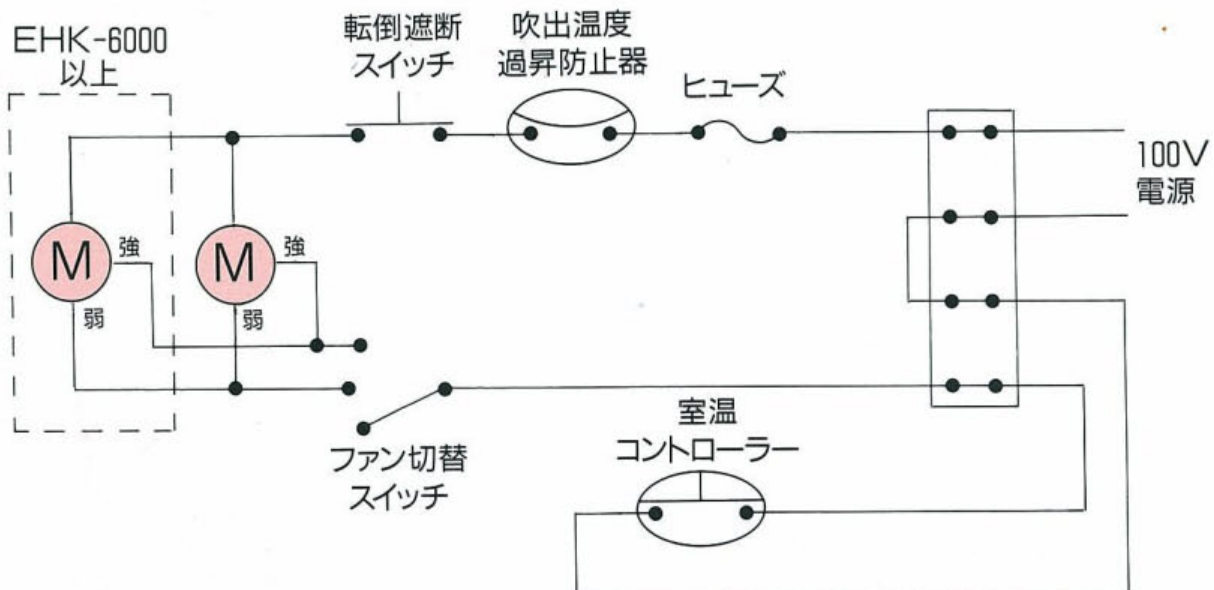


安全装置	動作条件	制御内容	復帰方法
蓄熱温度過昇防止器	140℃	蓄熱停止	グリル・前板を外し、リセットスイッチを押す。
吹出温度過昇防止器	160℃	ファン運転停止	自動復帰
100V電流ヒューズ	1 A	ファン運転停止	グリルを外し、ヒューズ交換
転倒時電源遮断スイッチ	手前 2° 以上傾斜	蓄熱・ファン運転停止	元の状態に戻す

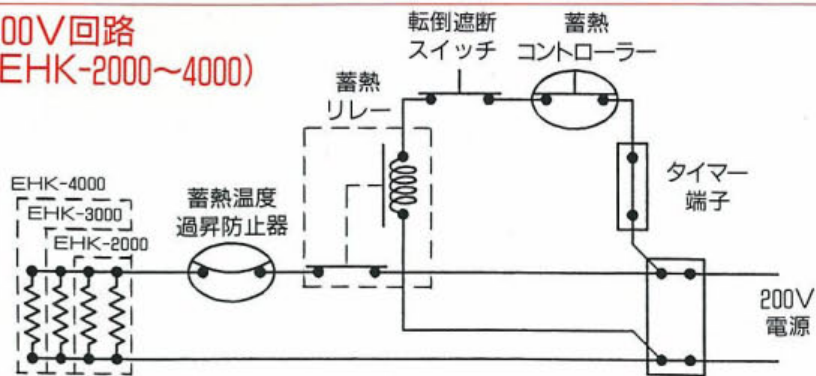
⚠ 注意：蓄熱温度過昇防止器の作動及び100V電源ヒューズが切れた場合は、販売店又は当社にご連絡下さい。

7-2 電気回路図

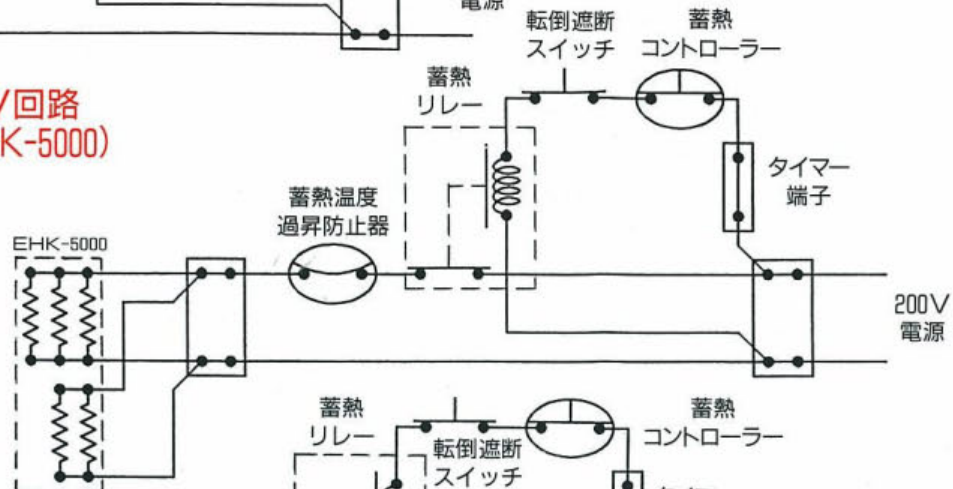
100V回路(EHK-2000～7000)



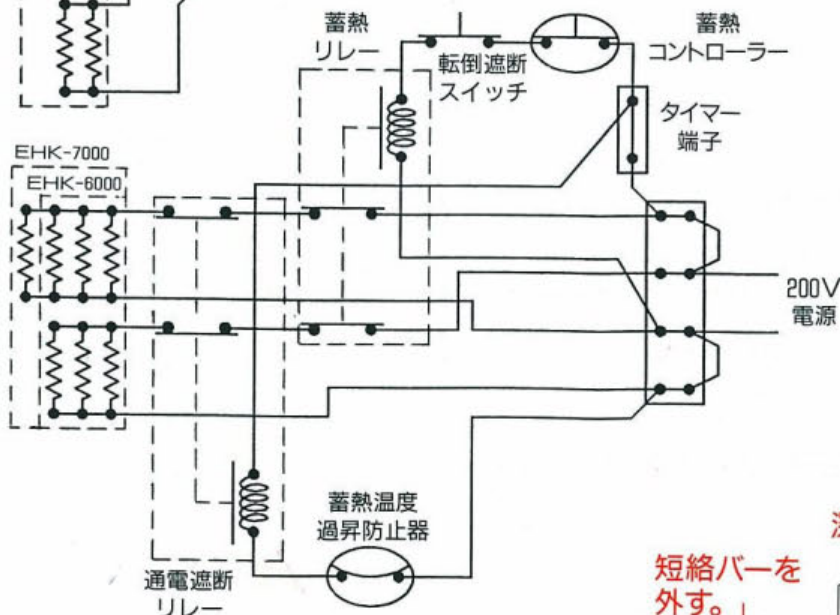
200V回路
(EHK-2000~4000)



200V回路
(EHK-5000)

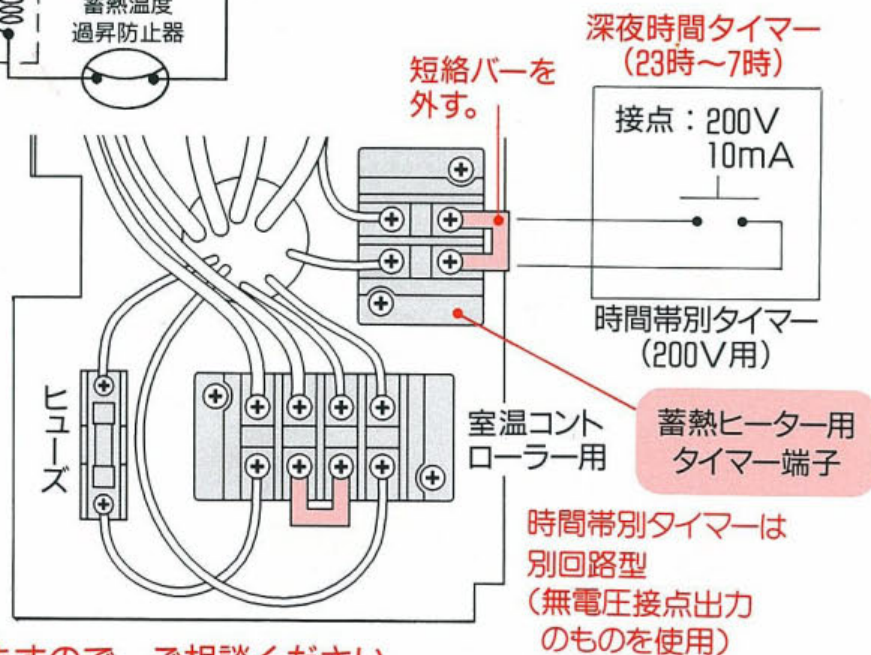


200V回路
(EHK-6000~7000)



7-3 Eシリーズを 時間帯別電灯 契約で使用の 場合(時間帯別 タイマー本体 取付)

※時間帯別タイマー付の
暖房器をご要望の場合、
オプションにて対応しますので、ご相談ください。



8 点検、アフターサービス

点検・お手入れ

暖房器を長く快適にご使用していただくために、ときどきお手入れが必要です。

- ① 暖房器左右側面の空気吸込口は綿ボコリがたまりやすいので、定期的に清掃することをおすすめします。ほこりがたまった状態では、暖房能力が低下したりファンの寿命が短くなる場合があります。
- ② 本体表面のほこりや汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取って下さい。ベンジンやシンナー等は表面の塗装を傷めますので、使用しないで下さい。
- ③ 未永く安心してお使いいただくために、2シーズンに1回程度、お買上げの販売店または当社に点検依頼されることを、おすすめします(有料)。

アフターサービスについて

- ① この商品の保証書は、裏面に添付しております。保証書は必ず「お買い上げ年月日」と販売店名等、所定事項をご確認の上、大切に保管して下さい。
- ② 保証期間中(2年)に修理を依頼される時は、お買い上げの販売店または当社までご連絡下さい。保証書の内容に従って修理いたします。
- ③ 保証期間経過後の修理についても、お買い上げの販売店または当社にご相談下さい。有償修理いたします。
- ④ お客様ご自身で修理されたり、手を加えたりすることは絶対にやめて下さい。大変危険です。
- ⑤ 修理などアフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店または当社までお問い合わせ下さい。

9 標準仕様

項 目		EHK-2000	EHK-3000	EHK-4000	EHK-5000	EHK-6000	EHK-7000
蓄熱	蓄熱方式	8時間蓄熱型					
	有効蓄熱量※1	5.1MJ	78.6MJ	106.0MJ	132.5MJ	159.0MJ	187.5MJ
	蓄熱効率※2	89%	91%	92%	92%	92%	93%
暖房方式		ファン強制放熱型					
定格 容量	単相200V	2kW	3kW	4kW	5kW	6kW	7kW
	単相100V	21W	21W	25W	25W	50W	50W
形状	横幅	593mm	772mm	951mm	1,130mm	1,404mm	1,583mm
	高さ	645mm					
	奥行	255mm					
重量	本体(総重量)	119kg	171kg	223kg	275kg	327kg	379kg
	蓄熱体(レンガのみ)	84kg	126kg	168kg	210kg	252kg	294kg
蓄熱レンガ数量		12ヶ	18ヶ	24ヶ	30ヶ	36ヶ	42ヶ
材質	蓄熱レンガ	酸化鉄系					
	断熱材	シリカ・アルミナ系断熱材					
制御	蓄熱量	切、小～大無段階設定(本体内部蔵)					
	室内温度	5～30℃無段階設定(本体内部蔵)					
ファン切替		「切」・「弱」・「強」3段階切替					
安全装置		○蓄熱温度過昇防止器 ○吹出温度過昇防止器 ○電流ヒューズ(1A) ○転倒時電源遮断スイッチ					
本体カラー		アイボリー系					

※1 有効蓄熱量＝定格容量×通電時間×蓄熱効率×3.6(1kW=3.6MJ)

※2 8時間蓄熱時

■仕様の一部をおことわりなく変更することがあります。